

福井県高P連会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会

(福井県生活学習館)「ユー・アイふくい」内 加藤 貞信



勝山高校 山口茜選手 (資料提供: 福井新聞社)



福井県高等学校PTA連合会 会長 加藤 貞信

今年度の活動について

平成二十七年年度の会長を務めさせていただきます羽水高校育成会顧問の加藤です。どうぞよろしくお願い致します。

当連合会は、県内の公立高校二十九校と私立高校一校の計三十校によるPTA連合会で、子どもたちのために情報を共有し連携し合って活動を行っています。

今年度の活動については、例年同様、はじめやネット犯罪への取り組みもさることながら、選挙権年齢の引き下げへの対応も考えなければなりません。選挙権の年齢が、二十歳以上から十八歳以上へ引き下げられ、来夏の参議院選挙から適用されます。これにより、選挙権を持つ高校生も出てきます。選挙権を通して社会への責任を自覚してもらうことは大事なことです。選挙についての教育も必要になってきます。子どもたちが選挙に利用されることなく、自分で考えて投票できるようにPTAとしてもサポートしていきたいと思っています。

また、人口減少問題もあります。福井県の人口は、現在約七十八万六千人ですが、平成五十二年には約六十三万三千人になると言われています。福井県の出生率は全国トップレベル、住みよさランキング一位、有効求人倍率も常にトップクラスでありながらも、人口減少に歯止めがかかりません。県外進学者の比率が約二十五%と低いことが大きな原因の一つと考えます。県内企業のPR不足や就職希望者の情報不足等、様々な理由があると思いますが、私たちにできることは、子どもたちにもっと福井を好きになってもらうこと、福井に誇りと愛着を持つてもらい、将来は必ず福井で頑張りたいと思えるような教育環境を作りあげることではないでしょうか。

来年七月八日(金)、九日(土)には、福井県で北信越大会が開催されます。その諸準備をはじめ、今年度も縁の下の方力持ちとして、子どもたちのために、また、PTA自体の更なるレベルを高めるために、さまざまな活動に取り組んで参りますので、会員の皆様方のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

第五十三回県高P連年次総会

会長に加藤貞信氏(羽水高校 育成会顧問)を選出

平成二十七年度の年次総会が六月九日(火)、A OSS A 県民ホールで、各単位PTAから会員百八十二名が参加して行われた。平井正文副会長の「開会のことば」の後、挨拶に立った平澤良典会長は、まず「昨年八月開催の全国高P連大会福井大会が、実行委員会を中心とした準備と当日の運営、そして各校からの大勢のスタッフの方々」に『おもてなしの心』で協力頂けたお蔭で『福井大会は素晴らしい大会だったと語り継がれるだろう』とのお褒めの言葉を頂くことができた。そして福井県PTAのレベルの高さも十分



森近悦治教育長

アピールできた。」と、会員の協力に感謝を述べられた。次いで、PTA、特に保護者の役割について考えていることを話された。「高校生の持つているスマートフォンは、とても便利な道具で、今の時代にはなくてはならないものだが、使い方を間違えるととても危険な道具だ。スマホ利用により、犯罪に巻き込まれる事件が増えており、いじめの加害者・被害者も生まれている。また、『スマホ依存症』や『ながらスマホ』などが問題になっている。県いじめ問題対策連絡協議会からの『ふくいスマートフォン推進運動』提唱を受けて、各校でも『高校生によるスマホ依存からの脱出タスクフォース』と題した活動が始まり、生徒会中心にスマホ利用のルール作りを進めている。これらの活動を県教委や学校・先生方にすべてお任せにするのではなく、親がもつこの問題に関心を持ち、お子さんとスマホの使い方について話し合っている。各校のPTAもこのルール作りに関心を持って頂きたい。スマホは親子ともに買い与えているのだから。」と話された。最後に、いまだ復興が進んでいない東日本大震災被災地への支援の継続を訴えられて挨拶を終わられた。

来賓として出席された森近悦治県教育長は、「昨年夏の全国大会は、皆様のご尽力により盛大に開催されたと聞いています。PTAの教育に対する熱意というものを全国に発信できたのではないかと思います。子どもたちの教育環境はITが大きく進み、良いことばかりでなく悪いことも現れ、ネットでのいじめ、スマホ依存症、ネットに関わる事件に巻き込まれるケースなどが出てきている。そのため、先ほど平澤会長からも話が合ったが、『ふくいスマートフォンルール推進運動』をしつかりと進めていきたい。学校だけに任せるのではなく、家庭・地域・社会全体が責任を持つて取り組む運動にしていくためにも皆様方にご協力いただきたい。スポーツ面では、選抜高校野球での敦賀気比高校の全国制覇、山口茜選手の世界的な活躍など、全体としてレベルが上がってきている。三年後に福井国体が迫っている。県として様々な準備を進めているが、競技力向上のため高校生に頑張ってもらいたい。そして、福井国体が成功するためには、県民一人一人が何らかの形で関わっていく必要がある。皆様のご参加、ご協力を是非ともお願いしたい。教育につ



県教育委員会表彰



26年度役員退任挨拶

ては、職業教育や英語教育の強化、課題解決型教育の重視が言われているが、県でもその方向に向けて教育体制を整える必要がある。幸い福井県は教員の質も高く、それを支える地域の理解も深いので、福井の良さを盛り込んだ形で進めていきたい。」と挨拶された。

続いて、片野正人県高等学校長協会長(武生高校)は、「学校教育とは、主人公である生徒一人一人を育てるために、生徒と多くの時間を共に過ごす、学校にいる教師が、保護者からの信託を受けて、保護者と連携して、教師の持つ『専門的な知識と技能』でもって、お預かりした大切なお子様を育てることといえる。また、学校教育や社会教育の大きな枠組みを作るのは県教育委員会なので、いわば保護者、県教委、学校が三位一体となつて、生徒一人一人の教育を行うという構図になる。その構図がうまく機能している県が、福井県であると思っている。今や、福井県の教育は全国的にも注目され、全国のモデルになっている感がある。



県高P連会長表彰

福井国体の成功に向けて、『チーム福井』というキャッチフレーズの言葉をよく聞くが、教育についても福井県には、保護者、県教委、学校、さらには地域からなる『チーム福井』というものがあって、その連帯感で生徒たちに恵まれた教育環境を提供しているのだと思う。チームとしての力を発揮するためには、メンバー間の信頼関係、相互理解、そして情報の共有や日頃からの円滑な関係が必要である。総会後の教育懇談会では、学校ごとの懇親だけでなく、他の高校や県教委のテーブルにも足を運んで教育懇談をしていただくことで、これからの学校教育、福井の教育を考える有意義な会になることを祈念したい。」と挨拶された。

この後表彰状贈呈に移り、PTA活動に特に功績のあった五名が県教育委員会から表彰され、各校PTA活動に貢献された五十六名の方々が当連合会長から表



27年度役員就任挨拶

彰された。次いで広報紙コンクルールの表彰が行われ、最優秀賞の藤島高校PTA以下八校PTAが表彰された。

続いて議事に移り、平成二十六年度事業報告、会計決算報告、施行細則の改正案(会費の額)が承認されたあと役員の改選が行われ、会長に加藤貞信羽水高教育会顧問が選出された。退任役員を代表して平澤会長、新任役員を代表して加藤会長の挨拶ののち議事が再開され、平成二十七年度事業計画案・予算案、平成二十八年度北信越地区高P連研究大会福井大会案が審議のうえ承認された。

次いで、平澤前会長が会則第二十一条にある顧問に就くことが理事会で承認された等の報告があり、竹内三知夫副会長の「閉会のことば」で年次総会は終了した。

なお、会場受付に設けられた東日本大震災の募金箱には、五、三五〇円の義援金が集まり、全国高P連の義援金口座に振り込んだ。

一、被表彰者氏名(敬称略)

*県教育委員会表彰

桂田 定樹(若狭) 木下 克則(勝山) 月城 祐司(丸岡)
平澤 良典(福井商業) 福谷 正人(敦賀工業)

*県高等学校PTA連合会長表彰

各校より推薦されたPTA役員五十六名

二、平成二十七年度役員氏名

会 長 加藤 貞信(羽水)
副会長



竹内三知夫(丸岡)



伊東 義之(丹南)



渡邊 英明(若狭東)

理 事 松本 成樹(大野) 宮谷 正志(福井農林)
前田 周二(武生東) 碓 望(敦賀気比)
監 事 土谷 秀靖(高志) 山本 英雄(鯖江)

三、平成二十七年八月以降の主な大会・研修会

*全国高P連大会岩手大会

八月二十・二十一日 盛岡市他

*PTA指導者地区研修会

「嶺南」九月十二日 三方青年の家
「嶺北」九月十九日 県生活学習館

*研究大会兼キャリアガイダンス研修会

十一月七日

四、平成二十八年度北信越地区高P連研究大会福井大会

*日 時 平成二十八年 七月八日(金)・九日(土)

*会 場 「主 会 場」 福井フェニックスプラザ
「分科会会場」 A OSSA 県民ホールなど

*参加者 約一、二〇〇名

*テーマ 《全国大会に準ずる》『再発見!愛』〜今こそ信じよう愛の絆〜

福井県の高校教育の取組みについて

福井県教育庁高校教育課

はじめに

社会は複雑化し、グローバル化が進んでいます。大きく変化する世の中を、豊かな心でたくましく生き抜く子どもたちを育むために、本県が取り組む高校教育について御紹介します。

高校生の学力向上について

県教育委員会では、生まれたときから高等学校卒業まで、切れ目のない「福井型十八年教育」を推進しています。高校教育課では、「福井県学力向上センター」のもとで、様々な取組みを行っています。

今年度の取組みの中で、特に重点的に実施するものを御紹介します。

一点目に、各校の授業改善を一層推進していきます。学力向上センターと高教研の各教科部会が実施する公開授業研究会を充実していきます。また、ICT機器を用いた授業法を研究する重点推進校を指定し、生徒用タブレットを用いた自主学習や実習における発表での活用などをすすめていきます。

二点目に「高校1年生と大学生との語り場」を実施します。大学生に高校の勉強で大切なことや大学での学習内容、自分の経験等を話してもらい、高校生とグループで語り合います。

三点目に、志望する大学に合格できるように、生徒を支援していきます。大学入試センター試験の結果や、国公立大学の個別試験問題を分析し、生徒が主体的に学習に取り組めるように、入試問題の詳細な解説や学習の仕方などをまとめた手引きを作成し、「県教育研究所ホームページ」の「福井県高校生受験応援サイト」に掲載しています。また、学年別・教科別入試対策セミナーや少人数による習熟度別学習等により大学進学希望者を支援しています。



タブレットを使った授業

サイエンス教育について

理数好きの生徒を増やし、トップを伸ばすサイエンス教育を目指し、様々な施策を実施しています。

平成二十年度から実施している「ふ

くい理数グランプリ」は科学的な思考力・判断力・表現力等の育成を目的に実施しています。個人またはチームで参加し、筆記問題や実生活に関連した実験・観察問題に取り組みます。

毎年実施している「ふくいサイエンスフェスタ」において、本県ゆかりの南部陽一郎博士のノーベル物理学賞受賞を記念して、平成二十一年度に創設された「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」を、サイエンス分野の研究発表等で優秀な成績を収めた県内の中・高校生に授与しています。昨年度の講演会では、ノーベル化学賞を受賞された北海道大学名誉教授鈴木章先生から「他国がまねできないことをやるべきだ。皆さんも独創的な研究を」と参加生徒にエールをいただきました。

昨年度は、これからの福井の産業を



福井テクノロジーアカデミー

支える人材育成の観点から、普通科系高校1年生を対象に「福井テクノロジーアカデミー」を実施しました。福井大学工学部および県内企業の協力のもと、講義や実習を通して、世界や国内で実績を上げている県内企業の優れたものづくりの技術をメカニカル、エレクトロニクス、マテリアル、ケミカルの4つのコースに分かれて基礎から応用まで学習しました。今年度は普通科系および工業系高校の1、2年生を対象として実施していきます。

英語教育について

本県では、実生活の中に活きる国際感覚や使える英語を養う「英語教育」を推進し、「ふるさと福井」に誇りを持ち、グローバルな視野を持つ活躍できる人材の育成に努めています。平成二十年度から福井県高校生英語ディベート大会を実施し、成績上位校が全国大会に駒を進め、全国大会でも上位入賞を果たしています。平成二十三年度からは、始業前や昼休みなどの時間を活用して、継続的に英語に触れる「イングリッシュ・シャワー」を全ての県立高校で実施するとともに、ALTを活用して少人数のディスカッションやタウン・ウォーキングなどを行う「土曜スクール」を実施しています。また、英語力向上に意欲的な高校生百名を米国ニュー

ジャージー州等に派遣しています。平成二十六年年度には、ALTや小中学生とともに英語活動を行う「FUKUI 英語ランド」を実施しました。



土曜スクール
(イングリッシュ・タウンウォーキング)

福井県オリジナル教材として、福井県を代表する産業、文化、伝統芸能などについて、楽しく学びながら英語で発信できる「福イングリッシュ」を作成し、平成二十五年より活用しています。また、職業系学科の高校生のコミュニケーション能力を伸ばすための「WORD ORDER DRILLS」を作成し、平成二十七年より活用し、英語を話すための基礎を身につけています。

平成二十六年からの事業では、スーパーグローバルハイスクール指定の高志高校において、大学等との連携授業やタイ・ベトナムへの海外研修、東アジアをテーマにした課題研究を行い、アソシエイト校の敦賀高校ではエネルギーをテーマにした課題研究に取り組んでいます。



高校生海外語学研修結団式

キャリア教育と就職支援について

キャリア教育の一環として、職業系高校と就職希望者の多い普通科系高校の生徒が、地域の企業等で、学習内容や将来の希望進路に応じたインターンシップを行っています。実践的な知識や技術・技能に触れることにより、専門教科の学習意欲を喚起するとともに、主体的な自己の進路選択に取り組む態度と能力を育成し、昨年、二千人を超える生徒が、約一千事業所等でお世話になりました。

また、就職支援として、職業系や定時制の高校に、各地域の企業・産業動向に知見を有する民間企業OB等を配置し、企業の人材ニーズを把握し、生徒の適性や希望と照らしてミスマッチを防ぐなど、進路に関する指導を行っています。

さらに、就職が内定した生徒全員を対象に、ビジネススキルアップセミナーを開催し、グループワークを中心とし

た演習を行っています。コミュニケーション能力や社会人としての基礎力を育成し、社会的職業的自立や学校から社会・職業への円滑な移行を図っており、昨年、一、四四三人が参加してスキルを高めました。

スマートフォンの使い方について

近年の急速なスマートフォンの普及に伴い、食事の時も手放せない、あるいは、平日でも長時間使用するといった「依存」や、SNSなどでのトラブルの発生が社会問題化しています。

そのため、県教育委員会が中心となり、今年五月、「ふくいスマートフォンルール」推進運動をスタートさせ、小学生から高校生、大人も含めてスマートフォン等のより良い使い方について考え、真のルールになるよう取り組むこととしています。

高校生については、各高校の生徒会に「高校生によるスマホ依存からの脱出タスクフォース」を設置して展開しています。(※タスクフォースとは、具体的な特定の目的のため、一時的に編成される組織)

すでに、各学校において、スマホ依存からの解放、スマホ以外の時間の持ち方・過ごし方・楽しみの発見、スマホとの上手な付き合い方などの課題について検討し、対応策を決定し、生徒に発信する取り組みを始めています。そして、各地区において、各校の取組みを発表・協議し、共同活動の検討や生徒への発信を行い、八月には、県の全体会となる「ふくい脱スマホ高校生サミッ

ト」を開催し、協議や実践活動の発表などを行い、共同宣言を採択するなどメッセージを発信していきます。

特別支援の取組み

平成二十四年七月に中央教育審議会の分科会において「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」が取りまとめられました。「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会です。

現在、特別支援教育においては、この提言を受け学校間の交流等に積極的に取り組んでいます。これは、特別支援学校の子どもたちが、地域の小中学校・高等学校の子どもたちや地域の人々と交流活動を通して相互にわかり合い、学び合おうとするものです。高等学校関係では、奥越特別支援学校と勝山高校、嶺南西特別支援学校と若狭高校などで行事や授業を通じた交流が行われています。

交流当初は、互いに遠慮しがちな様子でしたが、共に活動していく中で、笑顔で会話する様子がみられるようになりました。交流後は、高校生から「障害のある人について知るよい機会になった」という声が多く聞かれました。

今後、相互に学び育ち合い、尊重し合える有意義な交流を通して、「共生社会」の形成に向けて取り組んでいきたいと考えています。

ちよつと ぶじやましくす!

Introduction

坂井農業・坂井高等学校

少し寒さを感じた四月十四日、坂井農業・坂井高校を訪問しました。応接室には本郷盛邦会長とPTA担当の盛岡正男先生がお出迎え下さいました。

まず、一・二年生が在籍する坂井高校の概要をお聞きしました。坂井高校は坂井地区の四つの高校や学科を統合し、平成二十六年四月に開校したとても新しい高校です。私たち奥越明成高校も数年前に統合してできた高校なので、何か親しみを感じました。校舎のあちこちで拡張工事が行われ、生徒が増えて雰囲気が変わってきたといった話をお聞きし、ますます親近感を覚えました。

つづいて、PTAについて伺いました。現在は、PTA新聞の発行や活動の企画を担当する学級委員会と、校外指導を担当する育成委員会という構成です。ただ、新体制に伴い次年度からは総務・生活・進路の三委員会に変わるそうです。

PTA活動としては、朝の声かけ運動と



学校祭での模擬店のことが印象に残りました。朝の声かけ運動はPTA全体で取り組んでいます。「おはようございます」の一言が、生徒と保護者とお互い

の心を開かせてくれ気持ちよく朝のスタートを切る、と

いうことでした。学校祭の模擬店では、昨年度は焼き鳥・イカ焼き・ジュースを販売しました。企画や準備などそれな



りの苦労もありますが、生徒が楽しみにしておりすぐに完売という状況でした。昨年度は特に御苦労があったようで、グラウンド工事の影響で模擬店の開催が危ぶまれていたようです。しかし何としてもやりたいという熱意のもと例年通り実施できた、ということでした。

「坂井高校になって、生徒たちが元気になるのを感じます。これからいろいろなことが変わっていくでしょうが、PTAにおいても新しい総合産業高校としての特色を出していきたいと思っています。前年度に劣るようなことはしたくありません。」本多会長にこれからの抱負をお尋ねしたとき、おっしゃった言葉です。会長さんのリーダーシップのもと、全員が熱意を持って活動しているのを感じました。

最後にもう一つ。実は、訪問するとき道に迷ってしまいました。困っていたとき、道を教えてくれたのが坂井高校の女子生徒でした。とても丁寧に対応してくれたのが心に残っています。

(取材 奥越明成高校PTA前会長 中村豊)

Introduction

奥越明成高等学校

新緑がまぶしい四月下旬、奥越明成高校を訪問しました。

同校は平成二十三年に大野東高校と勝山南高校を統合し開校した、県内初の総合産業高校です。校庭には、校訓「自立 協調 創意」が刻まれた開校記念モニュメントが展示されています。

機械科・電機科・ビジネス情報科・生活福祉科・生活コース・生活福祉科福祉コースと、五つの学科・コースがあり、各科・コースの特徴を生かしながら互いに連携し、地域に根差し、ともに発展する高校を目指しています。

各科・コースでは特徴に応じた資格を取得し、総合選択では、所属する学科以外の科目も学習することが出来ます。卒業生の進路は就職が約六割、進学が約四割で、就職者のほとんどが県内に就職し、約五割が奥越地区に就職しています。心と技を磨き、地域に信頼され、必要とされる人材育成を実践している、新しい職業系高校です。

同校PTAは、総務・補導・研修の三つの部会で組織されています。総務部は、年間二回のPTAだより「明成」の発行を担当しています。PTAの活動だけでなく、各科・コースの活動や資格取得状況、三年生の進路概況などが写真や表などを使用して分かりやすく、保護者のニーズ



この企画は、調査広報委員が直接「ちよつとおじやまし」と、伺った話の中から委員独自の感性でこれとは思われるものを紹介していくものです。

に合った広報誌となっています。

補導部では、春と秋の年二回、校外交通指導を行っています。八割が自転車通学ということで、交通マナーや安全意識の向上を目的としています。

研修部では、「PTAと生徒が語る会」の開催を担当します。いろいろなことに挑戦する奥越明成高校が、よりよい良い学校となるよう、PTAとして何か協力できることはないか、という思いから開かれたもので、話題は生徒の家の過ごし方やお小遣いの使い方、進路や高校生活のことなど様々です。生徒たちはしっかりと自分の意見や思いを伝え、PTAと生徒が話し合いの場を持つ有意義な会となっています。

体育祭でもPTAが活躍します。炭火で焼き焼き鳥やフランクフルト・ジュースの販売を行い、長い列が出来る大盛況です。一致団結して、学校祭を盛り上げようと頑張る生徒たちを応援する熱い気持ち

が伝わってきます。今回、ご多忙の中、対応していただいた中村豊会長は「まだまだPTA活動も手探りで」と仰っていました。

歴史は浅く、走り出したばかりの奥越明成高校。しかし、熱い思いを持つPTAと学校、そして地域が一体となって生徒たちを育て、奥越地区の未来を支える学校となる日は、すぐにやってくるのだと感じました。

(取材 三國高校PTA前会長 松原亮二)

最優秀賞に藤島高校

第12回 広報紙コンクール

平成27年度の広報紙コンクール審査会は、(株)福井新聞社編集局メディア整理部長の森瀬 明氏、河和田屋印刷(株)営業部長の山形徳義氏を特別審査員にお迎えし、4月18日(土)県生活学習館において開催された。

今年度は、加盟29校から参加があり、審査に当たっては、①会員の求める情報ニーズに合っているか ②情報を簡潔に、要領よく伝えているか ③「読み易さ」という点で工夫しているか ④編集(レイアウト)の面で工夫されているか ⑤写真やカットを有効に使っているか等を視点として、一つひとつ丁寧に審査し、各自、優秀と思われる広報紙に評価点を付けた。今回は例年以上にレベルの高い広報紙が多く、どの委員も評価点を付けるのに苦労したが、最終的に最優秀1校、優秀2校、佳作5校を決定した。

また、8月に開催される全国高P連岩手大会において、福井県の代表として藤島高校と鯖江高校の広報紙を掲示することもあわせて決定した。

表彰は、6月9日の年次総会の席上で行った。

最優秀賞	藤島高校
優秀賞	科学技術高校 鯖江高校
佳作	三国高校 大野高校 羽水高校 足羽高校 丹南高校



藤島高校



鯖江高校



科学技術高校



今年で十四回目を迎える当連合会主催の「福井県高校生オーストラリア生活体験研修」は、八月二日(日)から十七日(月)までの十六日間、クイーンズランド州ブリスベン郊外で県内四校から七名と石川県高校から七名の十四名が参加して実施されます。現地の公立高校へ通学し、午前は英語レッスン、午後は現地生徒とのスポーツ交流・異文化交流を行います。また、ブリスベ市内観光や現地大学でのキャンパスツアーなども予定されています。ホームステイ滞在中、週末はホストファミリーと終日過ごし、さよならパーティーの頃には、家族の一員のようになるといわれます。多感な高校時代の海外研修は、人間形成や進路選択に大きな影響を与えることでしょう。積極的に行動し、多くの体験を積んできて欲しいと願っています。

高校生
オーストラリア研修に
七名が参加



分かれて、今年度の委員会活動について、率直に意見を出し合いました。その後、再び全体会で、各委員会からの報告があり、会議は終了しました。

六月二十日(土)に各校PTA会長会議がAOSAにて開かれました。これは、年度初めに各校の会長が一堂に集まり、今年度の活動について協議するとともに、各校のPTA活動について情報交換を行う場でもあります。自己紹介の後、来年福井で開催される北信越地区研究大会の実行委員会の組織や今後のスケジュール等について協議しました。前回の福井大会(平成二十二年)にならって実行委員会組織を作ること決定しました。次いで、秋に行われる研究大会、キャリアガイダンス研修会の持ち方について協議し、今年度も一本化して実施し、開催日は十一月七日(土)を第一案とすることにしました。休憩をはさんで、四つの委員会に

各校PTA会長会議

インフォメーション